

北関東のハブターミナルを目指して

「高速バス乗り継ぎステーションの設置による高速バスの活性化」調査報告書
概要版

国土交通省関東運輸局 群馬運輸支局

調査検討の背景と目的

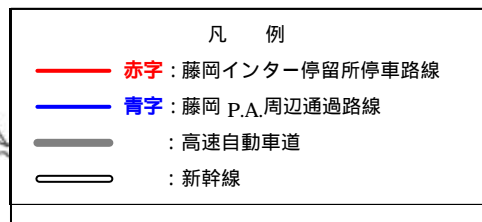
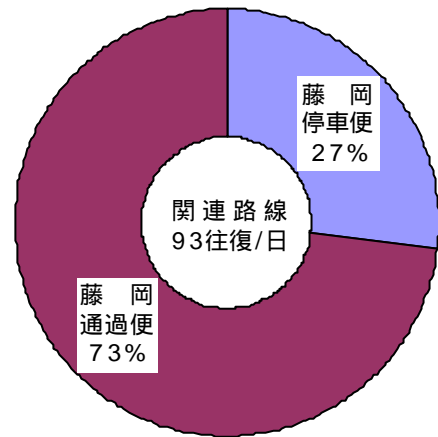
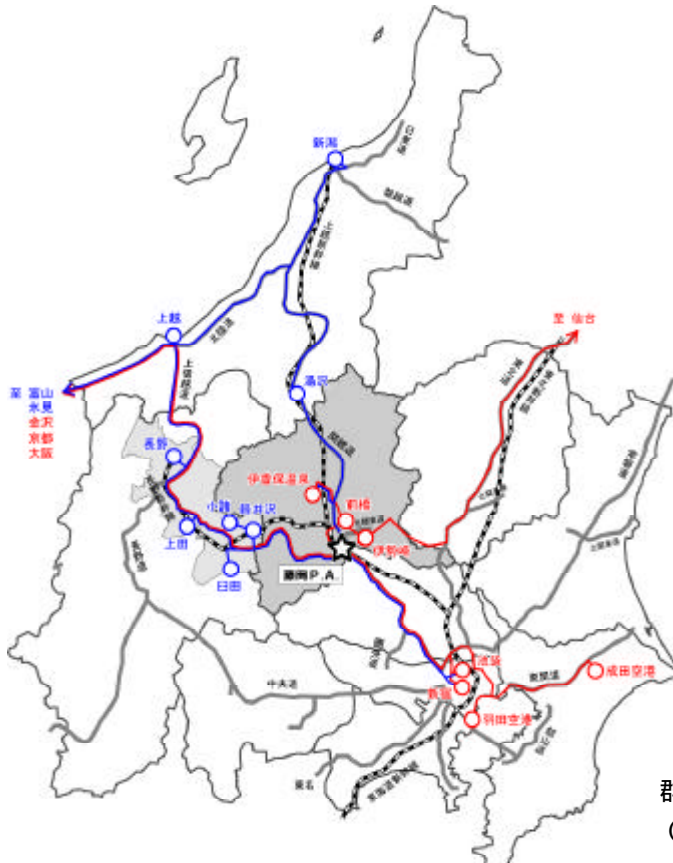
群馬県南部に位置する藤岡地域は、関越道と上信越道が藤岡ジャンクション（JCT）で分岐するとともに、将来的には北関東自動車道を介して東北道や常磐道方面ともつながるなど、高速道路の利便性が高い地域です。

藤岡JCTに近い藤岡パーキングエリア（PA）は、「ららん藤岡」として飲食、物販、遊戯施設などが整備され、年間を通じて賑わっています。

これらの高速道路を利用して東京、群馬、新潟、長野、羽田・成田空港などを結ぶ高速バスが片道100便近く運行されていますが、藤岡にはその4分の1しか停車しません。

藤岡PAに「高速バス乗り継ぎステーション」を整備すれば、北関東の交通の要衝として、また、周辺観光地へのアクセス拠点として大きな効果が生まれるものと期待されます。

本調査はこれらの点を踏まえ、沿線住民や高速バス利用者へのアンケートなどをもとに「高速バス乗り継ぎターミナル」のニーズ、機能、整備課題などを検討するために実施しました。

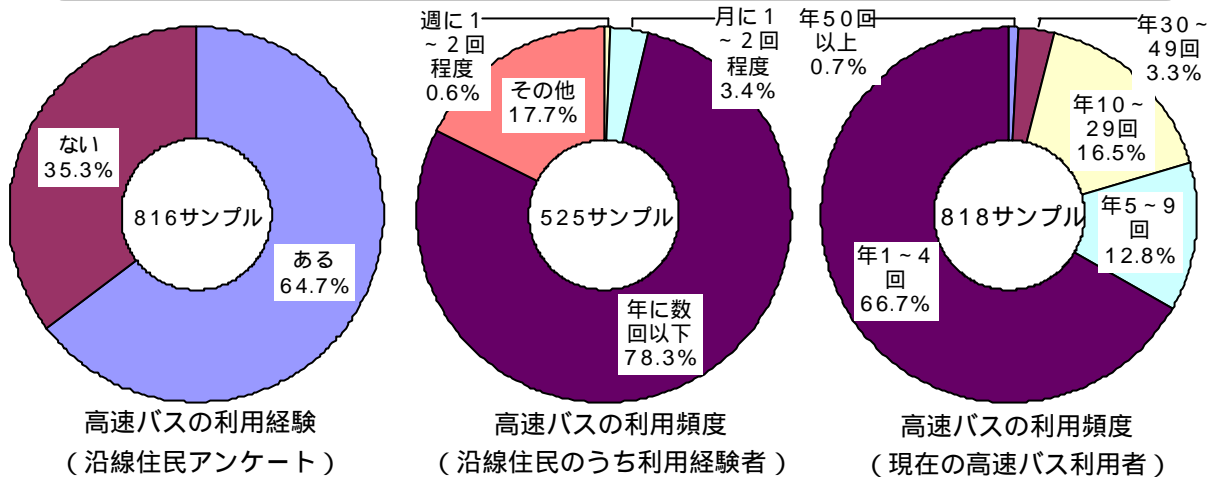


群馬県内を走行する主な高速バス路線
(平成 18 年 1 月現在)

高速バスは、まだ十分活用されていません

沿線住民の3分の1は高速バスを利用したことがなく、高速バスは広域移動手段としてポピュラーな存在とはいえません。

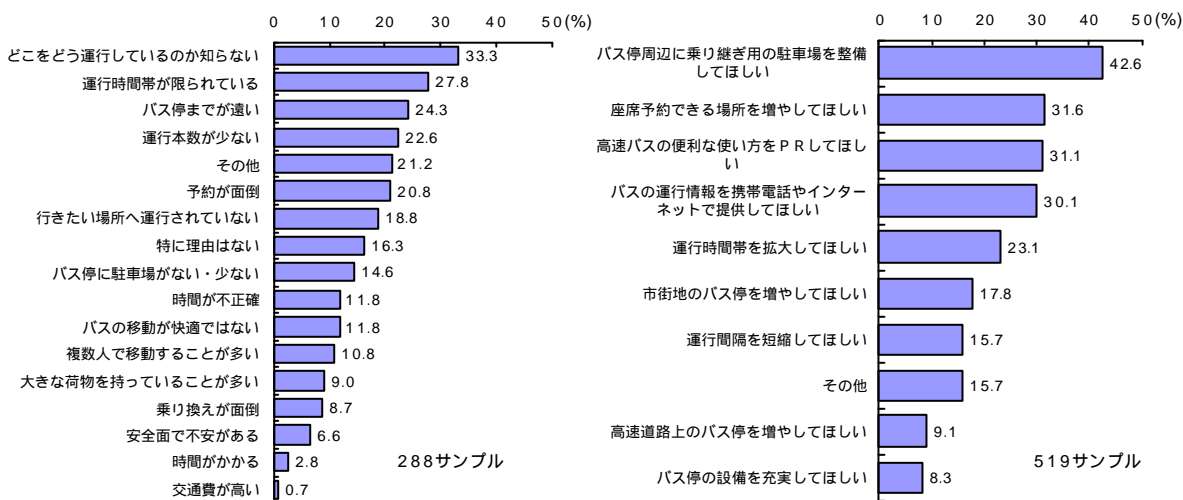
利用したことがあっても頻度は低く、沿線住民のうち利用経験者では「年に数回以下」が8割弱、現在の高速バス利用者でも、7割弱が「年に1~4回」と回答しています。



高速バスのPRや自動車との連携が必要です

高速バス利用未経験者は、「どこをどう運行しているかわからない」といった情報不足を指摘しています。

高速バス利用経験者も「バス停周辺の乗り継ぎ用駐車場の整備」(パークアンドバスライド)などに加え、「高速バスの便利な使い方」といった情報提供を求めています。

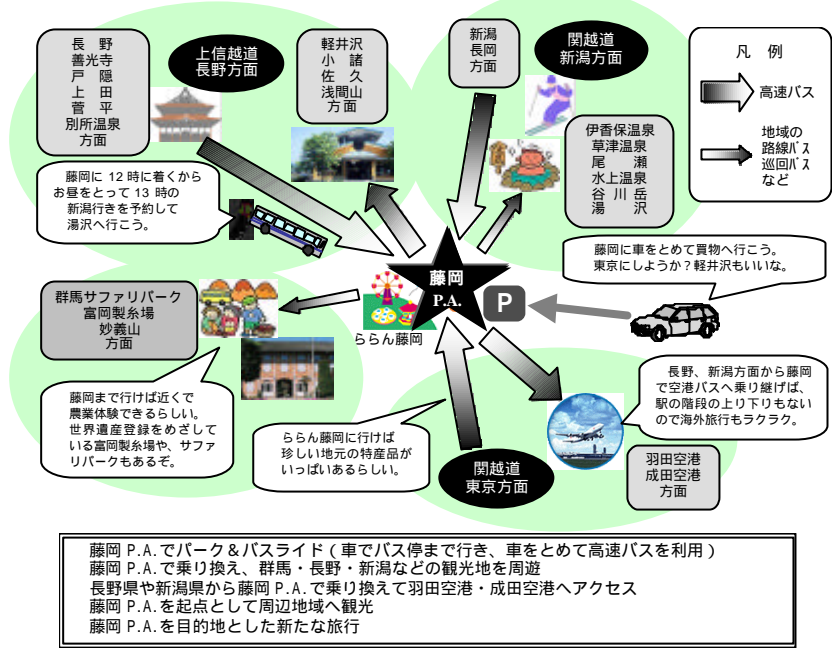


これまで高速バスを利用しなかった理由
(沿線住民のうち利用未経験者)

高速バスサービスに対する要望
(沿線住民のうち利用経験者)

高速バス乗り継ぎターミナルが利用機会を広げます

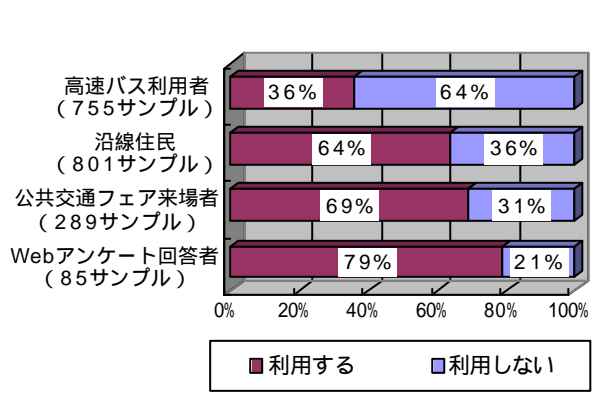
「高速バス乗り継ぎステーション」の設置は、下図のように高速バスの利用機会を広げるとともに、観光を始めとする地域の活性化にも寄与することが期待されます。



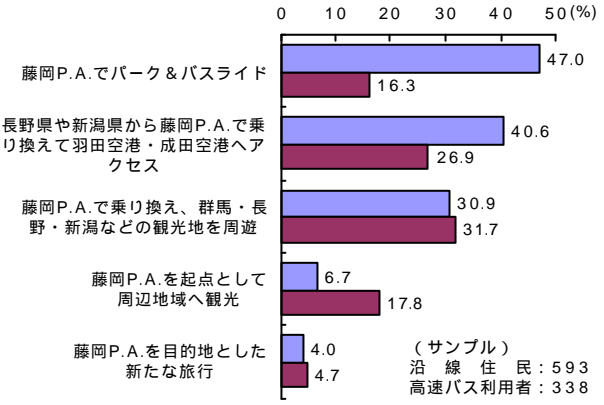
沿線住民をはじめ潜在的な利用意向がみられます

アンケートによると、高速バス利用者では 3 分の 1 ですが、沿線住民の 3 分の 2、公共交通フェア¹来場者の 7 割、Web アンケート²回答者の 8 割が「高速バス乗り継ぎステーション」が整備されれば「利用する」と回答しており、潜在的な利用意向の高さがうかがえます。パークアンドバスライド、高速バスどうしを乗り継いだ広域的な周遊、空港バスとの乗り継ぎが利用してみたいサービス形態の上位です。

1：平成 17 年 10 月 2 日群馬県庁にて開催 2：国土交通省群馬運輸支局 HP 上で平成 18 年 1 月～3 月に実施



「高速バス乗り継ぎステーション」の利用意向



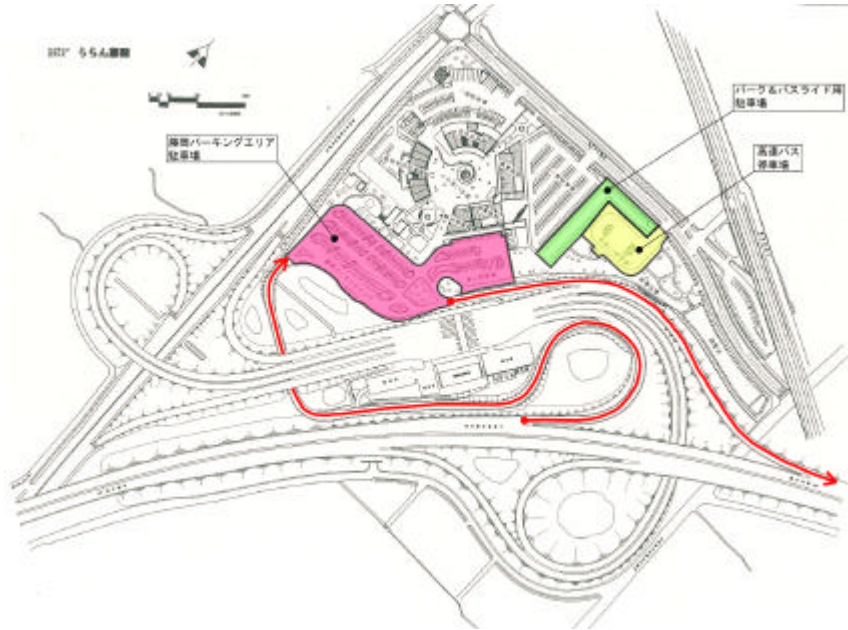
「高速バス乗り継ぎステーション」の利用方法

藤岡PAには課題もあります

藤岡PAは構造上、現状では上り線（東京方面）側からしかアクセスできません。下り線（長野方面）からアクセスするためのアプローチ道路を整備するためには、費用と時間がかかります。

出入りのための時間が多少かかりますが、当面、高速道路外にある既存の高速バス乗り場を活用して試行的、段階的に施策を展開していく方法も考えられます。

施策の導入に期待する沿線住民などのニーズを踏まえ、関係者間の合意形成へ向けた努力と、技術的な調査検討が必要です。



今後の取り組みの方向性

今後の取り組みの方向性として、提案された施策メニューの中から、利用意向の高いもの、単独で実施可能なもの、PR効果の高いものなどを選択し、試行的、段階的に実施していく方向があります。例えば、次のような取り組みが考えられます。

【短期的施策】

既存高速バス乗り場を活用し、次のような施策を展開
パークアンドバスライドの拡充
支線交通やツアーバスとの連携強化

【中長期的施策】

下り線側アプローチの整備とターミナル化を視野に入れ、次のような施策を展開
高速バスと空港バスとの乗り継ぎ
高速バス相互の乗り継ぎ

本調査に当たっては「高速バス乗り継ぎステーションの設置による活性化」幹事会（座長・前橋工科大学湯沢昭教授）を設置し、関係企業、関係行政機関等のご助言を得ながら調査検討を実施しました。